

第1章 国語教育と日本語教育

- ▼第二言語
- ▼4技能
- ▼JSL、JFL

第2章 日本語学習者

- 1) 留学生
- 2) 外国人労働者
 - ▼技能実習生
 - ▼特定技能1号・2号
 - ▼高度専門職1号・2号
- 3) 日本人と結婚した外国人
- 4) 南米日系人とその家族
- 5) 中国帰国者
- 6) 難民
- 7) 看護師・介護福祉士候補生
- 8) 短期滞在者
- 9) 帰国子女
 - ▼CLARINET、かすたねっと

第3章 教授法の歴史

1) 文法訳読法／文法翻訳法／GTM, Grammar-Translation Method

※16c頃～19c中頃

2) 直接法 ※19c

- ▼ナチュラルメソッド
 - ▼シリーズメソッド／サイコロジカルメソッド (by グアン)
 - ▼ベルリッツメソッド (by ベルリッツ)
- ▼フォネティック・メソッド
- ▼オーラル・メソッド (by パーマー)
 - ▼「話す・聞く」を習得するための5習性
- ▼GDM, Graded Direct Method (by リチャーズ・ギブソン)
 - ▼ゲシュタルト心理学
 - ▼ベーシック・イングリッシュ

3) アーミーメソッド／ASTP, Army Specialized Training Program

※1939-1945

4) オーディオリンガル・メソッド／AL法／オーディオリンガル・アプローチ／ オーラル・オーラル・アプローチ, Aural-Oral Approach (by フリース)

※1950年代

- ▼構造(主義)言語学
 - ▼パターンプラクティス、ミニマル・ペア、ミム・メモ練習
- ▼行動(主義)心理学
 - ▼習慣形成理論

5) コグニティブアプローチ／認知学習法 ※1960年代

- ▼認知心理学
- ▼生成文法 (by チョムスキー)

- 6) 人間主義的(ヒューマニスティック)な教授法 ※1960~70年代
- ▼サイレント・ウェイ (by ガッターニョ)
 - ▼コミュニティ・ランゲージ・ラーニング/CLL, Community Language Learning (by カラン)
 - ▼TPR, Total Physical Response/全身反応法 (by アッシャー)
 - ▼サジェストペディア (by ロザノフ)
- 7) VT 法/ベルボ・トナル法 (by グベリナ) ※1954年
- ▼言調聴覚論
- 8) SAPL (サプル), Self Access Pair Learning (by ファーガソン)
※1970年代
- 9) コミュニカティブ・アプローチ/CA, Communicative Approach/
CLT, Communicative Language Teaching ※1970年代
- ▼クラス活動
(インフォメーション・ギャップを使った活動、ロールプレイ、
インタビュー・タスク、プロジェクト学習、ディスカッション、ディベート、
シミュレーション)
 - ▼実際のコミュニケーションに含まれる3つの要素
①インフォメーション・ギャップ ②チョイス ③フィードバック
 - ▼コミュニカティブ・アプローチの指導原則 (by モロウ)
 - ▼コミュニカティブ・コンピテンス (by ハイムズ、カナル&スウェイン)
①文法能力 ②社会言語能力 ③談話能力 ④ストラテジー能力
 - ▼概念シラバス、機能シラバス
- 10) タスク中心の教授法 / TBLT, Task-based Language Teaching
(by ロング) ※1990年代
- ▼フォーカス・オン・フォーム, Focus on Form
 - ▼フォーカス・オン・フォームズ, Focus on Forms
 - ▼フォーカス・オン・ミーニング, Focus on Meaning

11) 内容重視の教授法／CBI, Content-Based Instruction

※1980年代

12) CLIL (クリル), Content and Language Integrated Learning／

内容言語統合型学習 ※1990年代

13) 協働学習 (ピア・ラーニング) ※近年

14) ナチュラル・アプローチ (by テレル・クラッセン) ※1980年代

▼モニターモデル (クラッセンの第二言語習得に関する5つの仮説)

①習得-学習仮説

②自然(習得)順序仮説

③モニター仮説

④インプット仮説

⑤情意フィルター仮説

第4章 第一言語習得と第二言語習得

1) 第一言語習得理論

▼習慣形成理論 (by スキナー)

▼生成文法理論 (by チョムスキー)

▼用法基盤モデル (by トマセロ)

▼第一言語の習得順序の研究 (by ロジャー・ブラウン)

2) 臨界期仮説 (by レネバーク)

3) 第二言語習得理論

<習得順序>

▼自然(習得)順序仮説 (by クラッセン)

▼創造的構築仮説 (by デュレイとバート)

▼処理可能性理論 (by ピーネマン)

<ノン・インターフェイス、インターフェイス>

- ▼習得-学習仮説 (by クラッシェン)
- ▼自動化
- ▼明示的知識、暗示的知識

<インプット>

- ▼インプット仮説 (by クラッシェン)
- ▼アウトプット仮説 (by スウェイン)
- ▼インターアクション仮説 (by ロング)
 - ▼意味交渉
- ▼気づき仮説 (by シュミット)
 - ▼インテイク
- ▼誤用訂正
 - ▼明示的訂正、暗示的訂正 (リキャスト)、プロンプト

4) 誤用研究

<対照分析研究>

- ▼言語転移 (正の転移、負の転移)
- ▼母語干渉

<誤用分析研究 (by コーダー)>

- ▼ミステイク、エラー
 - ▼グローバルエラー、ローカルエラー
 - ▼言語間エラー、言語内エラー (①過剰(一)般化 ②簡略化)
- ▼回避
- ▼語用論的転移 (プラグマティック・トランスファー)

<中間言語研究 (by セリンカー)>

- ▼化石化 (定着化)、U字型発達

第5章 言語と心理

1) 第二言語習得に影響する学習者の要因

- ▼動機づけ
 - ▼統合的動機づけ、道具的動機づけ
 - ▼内発的動機づけ、外発的動機づけ
- ▼認知スタイル(場独立型、場依存型)
- ▼言語適性
 - ▼MLAT
 - ▼適性処遇交互作用

2) 学習者のストラテジー

- ▼コミュニケーション・ストラテジー
- ▼学習ストラテジー
 - ▼直接ストラテジー
 - ①記憶ストラテジー ②認知ストラテジー ③補償ストラテジー
 - ▼間接ストラテジー
 - ①メタ認知ストラテジー ②情意ストラテジー ③社会的ストラテジー

3) 学習理論

- ▼状況的学習／社会文化的アプローチ (by レイヴとヴェンガー)
 - ▼正統的周辺参加 (LPP)
- ▼社会的構成主義 (by ヴィゴツキー)
 - ▼最近接発達領域 (ZPD)、スキヤフォールディング (足場掛け)

4) 言語と文化

- ▼文化変容モデル (アカルチュレーションモデル)
- ▼適応理論 (アコモデーション理論)

5) バイリンガリズム

- ▼同時バイリンガリズム、連続バイリンガリズム
- ▼バイリテラル、ダブルリミテッド

▼コードスイッチング

<言語能力による分類>

- ▼均衡バイリンガル、偏重バイリンガル、限定バイリンガル

<バイリンガリズムの理論 (by カミンス)>

▼敷居理論

▼発達相互依存仮説

- ▼生活言語能力 (BICS, Basic Interpersonal Communication Skills)
学習言語能力 (CALP, Cognitive Academic Language Proficiency)

▼共有基底言語能力モデル (氷山説)

(CUP モデル, Common Underlying Proficiency Model)

▼分離基底言語能力モデル (風船説)

(SUP モデル, Separate Underlying Proficiency Model)

<バイリンガル教育>

- ▼サブマージョン教育、移行型バイリンガル教育、イマージョン教育、
維持型バイリンガル教育、双方向バイリンガル教育

<アイデンティティとの関係による分類>

- ▼加算的 (付加的) バイリンガリズム、減算的 (削減的) バイリンガリズム

<年少者への日本語教育の現状>

▼JSL カリキュラム

- ①トピック型 ②教科志向型

▼入り込み授業、取り出し授業

- ▼特別の教育課程

第6章 言語の処理と理解

1) 記憶

- ▼二重貯蔵モデル
- ▼感覚記憶、短期記憶
- ▼ワーキングメモリー
 - ▼リーディングスパンテスト、リスニングスパンテスト
- ▼維持リハーサル
- ▼短期記憶から長期記憶への転送
 - ▼チャンキング、体制化、精緻化リハーサル、生成効果
- ▼長期記憶
 - ▼宣言的記憶(①意味記憶 ②エピソード記憶)、手続き的記憶
 - ▼メンタル・レキシコン(心的辞書)
- ▼プライミング効果、新近効果、初頭効果

2) 言語理解

- ▼スキーマ
 - ①内容スキーマ ②形式スキーマ
- ▼スクリプト
- ▼トップダウン処理(スキミング、スキヤニング)、ボトムアップ処理
- ▼先行オーガナイザー
- ▼橋渡し推論、精緻化推論

第7章 言語と教育

1) コースデザイン

- ▼ニーズ調査、レディネス調査
- ▼プレースメント・テスト
- ▼目標言語調査、目標言語使用調査
- ▼シラバス・デザイン
 - ▼シラバスの種類(構成内容で分けた場合)
概念、機能、文法、場面、話題、タスク、技能シラバス
 - ▼シラバスの種類(確定時期で分けた場合)
先行、後行、可変シラバス
- ▼カリキュラム・デザイン
 - ▼ヒドウン・カリキュラム(潜在的カリキュラム)
- ▼授業の実施
- ▼評価
 - ▼アチーブメント(到達度)・テスト、プロフィシエンシー(熟達度)・テスト
- ▼振り返り
 - ▼内省的実践家、自己研修型教師
 - ▼アクション・リサーチ、ティーチング・ポートフォリオ

2) 指導法

<話し方>フォーリナー・トーク、ティーチャー・トーク

<質問>クローズド・クエスチョン、オープン・クエスチョン
提示質問、指示質問

<授業の流れ>

<教室活動>

- ▼聞く&書く:ディクテーション、ディクトコンポ
- ▼話す
- ▼読む:速読、精読

- ▼書く 初級：制限作文アプローチ、ガイドド・コンポジション
中・上級：新旧レトリックアプローチ、プロセス・アプローチ、
パラグラフ・ライティング

<協働学習（ピア・ラーニング）での活動>

- ▼聞く&書く：ディクトグロス
- ▼読む：ピア・リーディング
 - ▼プロセス・リーディング、ジグソーリーディング
- ▼書く：ピア・レスポンス

<学習者オートノミー（自律学習）>

<ビリーフ>